

少子化と男女共同参画専門調査会 今後の検討課題と進め方（案）

1．検討課題

（１）少子化と男女共同参画に関する社会環境の国内分析

<これまでの調査分析内容>

- 国内指標の作成
- 国際指標と国内指標の傾向の違いに関する分析

<今後の調査分析課題>

- 国内指標項目の追加検討
：価値観関連指標（意識調査データ）の収集等→アンケート調査実施
- 指標データを用いた都道府県の類型化（重回帰分析・クラスター分析）
- 市（町村）の事例分析
- テーマ分析
：指標から抽出される課題ごとに、指標項目以外のデータを追加し分析。
就業構造基本調査の再集計データも活用。

（２）男女共同参画が経済・企業等に与える影響

<これまでの調査分析内容>

- 既存調査研究の収集・整理
- 「管理者を対象とした両立支援策に関する調査」の実施・集計分析

<今後の調査分析課題>

- 「管理者を対象とした両立支援策に関する調査」の再集計分析
- 働き方と生産性に関する意識調査 → アンケート調査実施

2. 主な今後の調査実施内容

(1) アンケート調査

- 調査対象：全国 20 歳～49 歳の男女

標本数は、都道府県別集計を行うことを前提に検討。

- 主な調査内容

少子化と男女共同参画に関する意識

< 調査項目候補 >

指標として設定した項目を意識面から確認する項目。

- ・労働時間が適正だと思うか。
- ・男性の短時間就業に対する意識。
- ・保育利用が容易だと思うか。 等

国際指標で意識調査データを用いた項目。

- ・失業したとして、納得のいく仕事が見つかると思う者の割合
- ・家族と一緒に過ごす時間を増やしたいと思う者の割合
- ・「男は仕事、女は家庭」に同意する者の割合
- ・自分の人生を自由に動かせると思う者の割合
- ・個人の人権が尊重されていると思う者の割合
- ・「全体的に言って、今幸せ」と考える者の割合

働き方と生産性に関する意識

< 調査項目候補 >

子どもを持つ女性に限らず「柔軟な働き方」を希望する人の割合。

柔軟な働き方：勤務時間の長さを選択できる（短時間勤務）

出勤・退社時間を選択できる（フレックスタイム）

勤務場所を選択できる（在宅勤務・勤務地限定）

一時期仕事から離れる（休職・再雇用）

本人の希望に添った働き方（勤務時間・勤務場所）ができる方が、効率的に働けると考える人の割合。

女性が責任ある仕事をする事は、企業や経済の活性化につながると考える人の割合。

(2) 就業構造基本調査の再集計（阿部委員・武石委員実施）

- 実施集計内容

女性の就業パターンの時系列変化：武石委員

M字カーブの構造を婚姻関係、子どもの有無等、学歴、無業者の就業希望の有無、キャリアパターンにより分析する。

働き方と婚姻・出産確率：阿部委員

「結婚している」及び「子どもがいる」に対して、どのような要因がどの程度影響しているかを検討する。

機会所得の推計：阿部委員

疑似コーホート・データを作成し、機会所得の推計を行う。

- テーマ分析への活用の検討：指標データの傾向からテーマ（課題）を設定。

3．調査の進め方

（１）アンケート調査と統計データ分析の一部

民間シンクタンクへの委嘱により実施。

（２）就業構造基本調査の再集計結果のテーマ分析への活用

阿部委員・武石委員により実施

（３）管理者アンケートの再分析

佐藤会長を中心に事務局で実施。

（４）社会環境の国内指標のテーマ分析（（２）以外）

事務局で実施。

4．調査スケジュール

	2005.10	11	12	2006.1	2	3
(1) 社会環境の国内分析 ・国内統計データの分析 ・テーマ分析	→	→	→		→	
(2) 経済・企業に与える影響 ・管理者調査再分析		→	→	→		
(3) ・アンケート調査		調査票作成	→ 実施	集計・分析	→	
(4) 報告書作成					→	
打ち合わせ会		○		○	○	○
専門調査会	○	○		○		○